

令和6年度 稲佐小学校学力向上プラン

長崎市第五次総合計画

G1 長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます

G1-1 「確かな学力」の向上を図ります

G1-2 健康な心と体を育成します G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります G1-4 安全、安心で学べる教育環境を整備します

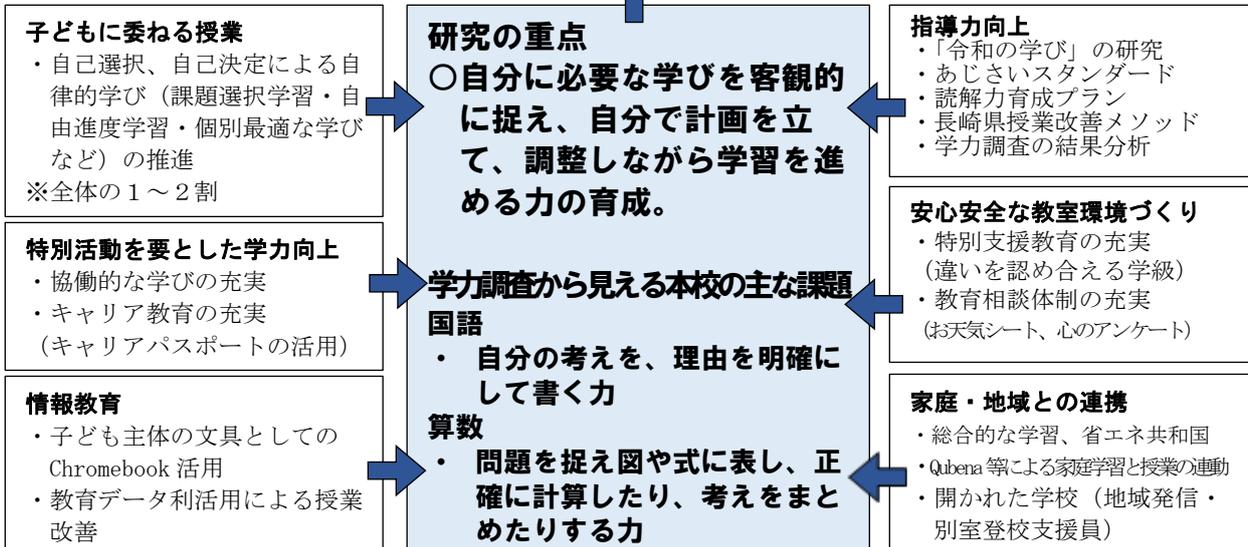
学校教育目標

たくましく未来を切り拓く子どもの育成
～いっぱい学び なかよく協力し さいごまでやり抜く～

合い言葉 「なりたい自分になる」

学校経営の重点

誰もが安心して学べる学びの多様化に応える学校（令和の学びへの転換）



学力向上のための本校の継続的な取組

学び方をそろえる「令和版いなさの学び」

①「しゃべり場」

毎日の朝の会や帰りの会等で、児童同士が対話をする場面「しゃべり場」を、積極的に位置づける。授業においては「見通しをもつ話し合い」「考えを深めるための話し合い」「まとめへ向かう話し合い」など状況に応じて位置づける。

②「いなさの学び」

「全員挙手」、「三人発表」から始まる問題解決的な学習として、長年の研究を通して受け継がれてきた「いなさの学び」を年間を通して実践する。

③「ハンドサイン」

五つのハンドサインと話型を全学年で位置づけ、年間を通して指導を行う。話型については一つの型であり、学級・学年の実態に応じて付け加え等行う。

④「合意形成」

学級会ハンドブックを有効活用し、学年の発達段階に応じてより効果的な方法を用いるようにし、子どもたちが自らの力でよりよい学びを生み出すことができるようにする。ハンドブック内には「合意形成」の仕方もまとめている。

⑤保護者向け文書「令和6年度全国学習状況調査結果及び長崎県・市学力調査結果について」の中の「5 調査結果を受けて学校で取り組むこと」を、学年・学級の実態に応じて着実に実践する。

学校全体で学び方をそろえることで、児童も教員も迷うことなく意欲的に学習に取り組むことができる。このことが、学力向上にもつながり、本校の課題や教育目標の達成にも近づけると考える。